

# 2024年度 公益社団法人日本地すべり学会東北支部 第40回総会議事録

開催場所：トークネットホール仙台（仙台市民会館）B1 展示室

開催日時：2024年5月17日(金) 14:00~14:45

総会進行：瀬野幹事長 議事進行：森口支部長

壇 上：森口支部長，高見副支部長，瀬野幹事長

参加者：リモート出席8名、会場出席45名（正会員） 委任状45名 合計98名

## 1.開会

高見副支部長による開会の挨拶

## 2.支部長挨拶

森口支部長より総会に先立っての挨拶があった。

- ・支部「運営規則」第12条の2「支部総会の議長は、支部長がその任にあたる」との規定により、本日の議長を務めることを告げた。
- ・現在の正会員数163名に対し、正会員の1/2以上の出席を満たすことから、本総会は成立していることが告げられた。
- ・議決にあたっては、支部「運営規則」第14条の2「議決は、出席会員の過半数をもって決する」ことが告げられた。
- ・総会議事録の作成を山本幹事が行うように指示した。

## 3.議事

○第一号議案 2023年度事業報告

- ・事業報告の説明（議案書 p1~4）
- ・2023年度総会是对面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催した。総会では第一号議案~第六号議案まで審議し、全ての議案の承認を得た。
- ・第1回役員会（2023/4/19）、第2回役員会（2024/3/29）を開催し、事業計画及び2024年度宮城大会の運営方法等について協議した。
- ・支部幹事会は2024年度宮城大会の幹事会と併せて計6回開催した。
- ・運営委員会は2024年3月29日に開催し、2023年度事業実行状況、2024年度の事業計画に関する方針説明、総会議案書および2024年度宮城大会開催に関する進捗状況等を報告し、承認を得た。
- ・2024年度宮城大会に関する準備会を計4回、幹事会を計3回開催した。また、実行委員会を2023年11月10日に開催し、本部事業計画部へ計3回参加した。
- ・第1回講演会（2023/5/12）及び第2回講演会（2023/7/28）は、対面とWEB配信を併用したハイブリット方式にて開催した。
- ・鶴岡市西目地区斜面災害の現地調査に参加20名で実施した（2023年4月23日実施）。
- ・地すべり現地検討会は、2024年度宮城大会の現地見学コースである宮城県栗原市「荒砥沢地すべり」で1泊2日の行程で開催した。

- 西目地区災害現地調査報告会を 2023 年 7 月 28 日に開催し、2023 年 4 月 23 日に実施した災害調査結果を報告した。
- 支部の若手会員向けの地形判読や地すべり危険度評価等のテーマについてグループワーク形式で実践的な研修を計 3 回実施した。
- 支部だより第 34 号を 2023 年 12 月に発刊した（印刷 235 部 発送 227 部）。また、支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部行事等の掲載などを行った。
- 講師派遣として、宮城県砂防ボランティア協会に（株）復建技術コンサルタント 押見和義氏を派遣した。
- 関連団体との連携として以下の講師派遣・後援等を行った。
  - 後援：（一社）地盤品質判定士会東北支部 被災地見学会（2023 年 10 月 24 日）
  - 後援：（公社）土木学会東北支部 「防災に関するシンポジウム」（2024 年 1 月 1 日）

※第一号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

#### ○第二号議案 2023 年度収支決算報告及び監査報告

- 大澤事務局長が収支決算報告内容について説明した（議案書 p5～6）。
  - 今年度は協賛金を 20,000 円/団体として協賛いただいている。
- 2023 年度の収支決算は以下のとおりである。
  - 収益 1,881,736 円 支出 1,577,000 円
  - 次期繰越額 1,089,457 円+304,736 円=1,394,193 円
- 監事である渋谷 保氏、橋本 修一氏が監査結果を報告した（議案書 p7）。

※第二号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

#### ○第三号議案 2024 年度事業計画（案）

- 2024 年度事業計画（案）の説明（議案書 p8～9）
- 役員会、運営委員会、幹事会・各委員会及び 2024 年度宮城大会実行委員会・幹事会の開催を計画している。
- 今年度も引き続き「斜面変動研究のワーキング」を支部若手～中堅会員を対象とした研究、情報交換の場として実施し、研究成果を支部内（研究発表会、HP 等）で発信、共有する。
- 講演会・研究発表会は、支部総会後の他、7 月下旬頃に開催予定とし、講演内容は地すべり調査、研究に関連する成果についての講演やワーキング成果の発表等を予定している。
- 研修会は計 3 回の開催予定とし、「斜面防災危険度評価ガイドブック」をテキストとした支部若手会員向けの演習を伴う実践的な研修を計画する。
- 災害調査に関し、調査派遣、緊急調査等について他学会や協会などと連携して実施する。
- 地すべり現地検討会は宮城大会へのサポートを行うため実施しない。

- 支部日より第 35 号を 2024 年 12 月に発行予定である。
- アウトリーチ連絡会・会員数対策連絡会との連携として、講師派遣や市民向け勉強会などを通じた支部事業の宣伝活動を行う。また、「地すべり調査・設計に関する技術講座」の開催を計画する。
- 関連する学会・協会と連携しながら各団体への出前講座や出張授業（アウトリーチ活動）を積極的に推進する。また、災害調査時に他学会等との連携を推進する。

第三号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

#### ○第四号議案 2024 年度収支予算

- 収支予算について、事務局より 2024 年度収支予算案について説明（議案書 p10～11）。
- 各事業計画を対面および WEB ハイブリッド開催として予算計上していることを報告した。
- 収支予算見込みは以下のとおりである。

収益 1,382,500 円 支出 1,376,100 円 差額 6,400 円  
 次期繰越額見込み 1,394,193 円 +6,400 円=1400,593 円

第四号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

#### ○第五号議案 2024 年第 63 回研究発表会及び現地見学会（宮城大会）の件(議案書 p12)

- 2024 年第 63 回研究発表会及び現地見学会（宮城大会）について仙台国際センターをメイン会場として以下の日程、場所で開催する。対面による現地開催を原則としてオンラインも併用して行う。

9 月 17 日	県民講演会 仙台国際センター展示棟
9 月 18 日～19 日	研究発表会及び新技術展示 仙台国際センター展示棟
9 月 20 日	現地見学会 3 コース

（荒砥沢地すべりコース、東日本大震災伝承施設コース、丸森豪雨災害・津波災害復興コース）

- 実行委員会及び幹事会の組織と大会運営について報告した。

第五号議案に関して委任状を含め承認された。また、以下の質問・意見があった。

#### 【質問・意見】

- 宮城大会実行の準備にあたり、事務局（会計等）の負担が大きいと思われるが、事務局の人員増員等の対応は考えているか伺いたい。また、インボイスの導入等による事務作業の増加が予想されることから、準備作業にかかる予算も適切に計上していただいた方が良いと感じた。

#### 【事務局回答】

- 東北支部の予算と宮城大会の予算は別々の計上としている。宮城大会の予算として事務作業に対する費用は計上していないが、特定の担当者へ負担が集中しないよう、状況に応じて組織体制や作業分担を検討していきたい。

○その他・報告事項（議案書 p15）

- 長年にわたり支部活動に貢献された前東北支部長 大河原正文氏（岩手大学理工学部教授）に対し、表彰規定に則り「地すべり学会東北支部賞」を授与した。
- 今年度の協賛金はコロナ禍も落ち着きを見せ始めたことから、本年度より積極的な事業実施を計画し、本来の2万円とすることを決定した。
- 今後の本部開催事業の報告
- 運営規則第6条「支部長は、支部事業の実務を行う幹事を支部会員の中から選任する」の規定により、幹事の変更・追加を以下の通りとすることを報告した。

「巡検計画委員会 幹事」

大日本ダイヤコンサルタント 伊藤靖雄 氏から大日本ダイヤコンサルタント 小林卓矢 氏へ変更する。

「研修委員会 幹事」

基礎地盤コンサルタンツ 西俊憲 氏から奥山ボーリング 鈴木真悟 氏へ変更する。

「事業企画委員会 幹事」

基礎地盤コンサルタンツ 根岸拓真 氏を追加する。

4.閉会

高見副支部長が総会の閉会を告げ終了した。



〔総会開催の様子〕

以上